

2024年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	人文科学への誘い(〇〇〇)		
ナンバリングコード	B20506	大分類 / 難易度 科目分野	教養教育科目 / 標準レベル
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 前期
必修・選択区分	選択 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	A035001	クラス名	-
担当教員名	東寺 祐亮、淵上 千香子、衛藤 恵理香		
履修上の注意、履修条件	特になし		
教科書	なし		
参考文献及び指定図書	『はじめて学ぶ言語学 ことばの世界を探る17章』大津由紀雄編、ミネルヴァ書房 『基礎日本語学』衣畑智秀(編)、ひつじ書房		
関連科目	基礎学力講座(国語)、英語1・2、文章表現、文章表現基礎講座		

○基本情報							
授業の目的	<p>さまざまな背景を持った人々と関わるためには、その人々の生活における様式や価値観、すなわち「文化」についての知識が不可欠です。他者の「文化」に対して「似ている」「異なる」という認識を持つことは重要ですが、そのためには自らの「文化」と認識しているものについて再検討することが必要です。「人間」と「文化」を研究する「人文科学」に触れることは、その糸口となります。</p> <p>本授業では、「日本の文学(古典／近現代)」と「日本のことば」について学習することで、自らの認識の枠組みをふりかえり、他者の「文化」を知ることにつなぐことを目的とします。このような人文科学的素養を養うことで、幅広い視野に立つことができるようになり、社会課題に対して多角的で柔軟な思考ができるようになります。</p> <p>※この授業は「地域・社会を理解する科目」として位置づけられています。</p>						
授業の概要	<p>本授業は、大きく「日本の文学(古典／近現代)」と「日本のことば」に分かれます。</p> <p>「日本の文学」では、古典と近現代の「文学作品」を扱い、それらが作品外の事象と切り離すことができないということを理解します。作品の詳細な読解を行い、「文学におけることば」とそれ以外のことばの区別についても検討します。</p> <p>「日本のことば」では、現代の日本語(音声・形態・意味・文法・認知・社会)について学習します。日本語の特徴や、認知、社会との関わりを学ぶことで、私達の生活と言葉のつながりについて考えます。</p> <p>本授業では、上記学習内容を講義とグループ学習を中心に進めます。比較検討、他者との意見交換を通して、学習内容への理解を深めます。</p>						
授業の運営方法	<table border="1"> <tr> <td>(1) 授業の形式</td> <td>「講義形式」</td> </tr> <tr> <td>(2) 複数担当の場合の方式</td> <td>「オムニバス方式」</td> </tr> <tr> <td>(3) アクティブ・ラーニング</td> <td>「グループワーク」</td> </tr> </table>	(1) 授業の形式	「講義形式」	(2) 複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」	(3) アクティブ・ラーニング	「グループワーク」
(1) 授業の形式	「講義形式」						
(2) 複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」						
(3) アクティブ・ラーニング	「グループワーク」						
地域志向科目	該当しない						
実務経験のある教員による授業科目	該当しない						

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	身近なところにある「日本文化」に気づくことができ、その「日本文化」について積極的に考え、調べることができる。		20点	10点
【知識・理解】	「日本の文学」と「日本のことば」についての基礎的な知識を身につけ、その特徴を説明することができる。		20点	
【技能・表現・コミュニケーション】	身近なところにある「日本文化」に関わる体験や考え方を表現することができ、他者の体験や考え方を理解して意見を交換することができる。		20点	10点
【思考・判断・創造】	生活の中の出来事と「日本文化」を関連付けて説明することができる。／自己の文化と他文化を比較して、お互いを尊重した態度を取ることができる。		20点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
<ul style="list-style-type: none"> ・主な評価はレポート・授業内の提出物で行います。 ・Google Classroomを利用して資料配付・課題提出・課題返却などを行います。 ・グループ活動への参加も評価します。 ・課題のフィードバックは、次回以降の授業中に行います。

○その他
<ul style="list-style-type: none"> ・提出物や配布物はクラスルームを利用するため、授業でPCを使用することがあります。 ・日本の文化(文学、ことば)について学習する際の特徴として、「高い確率で何らかの接点がある」というところが挙げられます。本授業では、学習内容を知識や経験と結び付けて文章を書く機会や、グループメンバーに説明する機会が頻繁にあります。

2024年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名	人文科学への誘い(〇〇〇)	授業コード	A035001
	担当教員	東寺 祐亮、瀨上 千香子、衛藤 恵理香		
学修内容				
1. ガイダンス《東寺》 この授業の目的・到達目標・内容・評価方法等について説明します。必要に応じてアンケート調査等を行います。				
予習	シラバスを読んで授業内容を把握する。		約2時間	
復習	資料を読んで授業中に案内した課題に取り組む。		約2時間	
2. 日本語の音声・音韻《東寺》 音声学、音韻論の観点からみた現代日本語について学びます。その学んだ知識と自己の言語体験を結び付けるワークに取り組みます。				
予習	参考図書から音声学・音韻論について調べる。		約2時間	
復習	資料を読んで授業中に案内した課題に取り組む。		約2時間	
3. 日本語の文法《東寺》 統語論の観点からみた現代日本語について学びます。その学んだ知識と自己の言語体験を結び付けるワークに取り組みます。				
予習	参考図書から音声学・音韻論について調べる。		約2時間	
復習	資料を読んで授業中に案内した課題に取り組む。		約2時間	
4. 日本語と認知《東寺》 心理言語学、認知言語学の観点からみた現代日本語について学びます。その学んだ知識と自己の言語体験を結び付けるワークに取り組みます。				
予習	参考図書から音声学・音韻論について調べる。		約2時間	
復習	資料を読んで授業中に案内した課題に取り組む。		約2時間	
5. 日本語と社会《東寺》 社会言語学の観点からみた現代日本語について学びます。その学んだ知識と自己の言語体験を結び付けるワークに取り組みます。				
予習	参考図書から音声学・音韻論について調べる。		約2時間	
復習	資料を読んで授業中に案内した課題に取り組む。		約2時間	
6. 日本近現代文学導入—作品を読むための方法《瀨上》 取り扱う「文学」の範囲や、作品が「どのように書かれているか」に着目することの重要性について説明し、作品読解の方法について具体的な作品を例示しながら解説します。				
予習	好きな小説や詩を一編、読み返しておく(漫画は不可)。		約2時間	
復習	予習で読んだ作品を講義内容をもとに読解する。		約2時間	
7. 「語られること」と「語られないこと」《瀨上》 作品読解において、特に作品の情報の出し入れを担う装置である「語り手」に着目しながら、その立場や価値観を検討することの重要性について、具体的な作品を例示しながら解説します。				
予習	指定された作品を読み、前回講義内容をもとに読解する。		約2時間	
復習	予習で読んだ作品を講義内容をもとに読解する。		約2時間	
8. 「土地」を表象すること《瀨上》 あるものを別のもので表現すること、およびその行為としての「表象」や、ことばの領域における「表象」作用としての「言説」、「日常」との距離、差異、周縁として「表象」される「物語」等について、特に「土地」が「表象」されている作品を例示しながら解説します。				
予習	指定された作品を読み、前回講義内容をもとに読解する。		約2時間	
復習	予習で読んだ作品を講義内容をもとに読解する。		約2時間	

○授業計画	科目名	人文科学への誘い(〇〇〇)	授業コード	A035001
	担当教員	東寺 祐亮、瀨上 千香子、衛藤 恵理香		
学修内容				
9. 「名作」の作られ方—「名作」はどのようにして「名作」と呼ばれるか《瀨上》 ある作品が「名作」になるまでの展開や、特に作品外部における「名作」の条件、それらと作品内容との関わりについて、具体的な作品を例示しながら解説します。				
予習	指定された作品を読み、その知名度や評価について調査する。		約2時間	
復習	予習で読んだ作品を講義内容をもとに読解する。		約2時間	
10. 日本近現代文学まとめ—作品を批評すること《瀨上》 ある作品を評価したり、ふるいにかけてたり、位置づけたりするときの価値観について検討し、そのときに気をつけなければならないことについて解説します。第6回から第10回までの内容をふまえ、みなさん自身で選定した作品について、読解レポートを作成します。				
予習	レポートで自らが扱う作品を選定し、読んでおく。		約2時間	
復習	予習で読んだ作品を講義内容をもとに読解し、その作品についてレポートを書く。		約2時間	
11. 令和:『萬葉集』『梅花歌三十二首』《衛藤》 広く韻文散文にわたって上代の日本古典文学に触れることを通して、比較文学的立場から国語・国文学について学びます。特に『萬葉集』を中心にして、中国文学との比較をしつつ解説します。				
予習	元号「令和」についての事前学習		約2時間	
復習	ワークシートの整理・書き込みの精読		約2時間	
12. やまたのをろち:小学校国語科用教科書と『古事記』八岐大蛇《衛藤》 上代の英雄伝説について取り上げます。				
予習	英雄像についての事前学習		約2時間	
復習	ワークシートの整理・書き込みの精読		約2時間	
13. いなばのしろうさぎ:小学校国語科用教科書と『古事記』稲羽の素戔《衛藤》 『古事記』の世界観について取り上げます。				
予習	「いなばのしろうさぎ」の概要についての事前学習		約2時間	
復習	ワークシートの整理・書き込みの精読		約2時間	
14. うらしま:尋常小学国語読本「うらしま太郎」と『丹後国風土記』『水江の浦の嶼子』《衛藤》 上代文学における中国文学の受容と変容について解説します。				
予習	「うらしま太郎」の概要についての事前学習		約2時間	
復習	ワークシートの整理・書き込みの精読		約2時間	
15. うらしま:うらしま太郎と玉手箱、講義のまとめ《衛藤》 比較文学的立場から国語・国文学について理解を深めます。				
予習	『丹後国風土記』『水江の浦の嶼子』についての事前学習		約2時間	
復習	ワークシートの整理・書き込みの精読		約2時間	
16. なし				
予習			約2時間	
復習			約2時間	